

口腔顎顔面矯正学分野 特別講演のお知らせ

『頬側歯槽部および口蓋正中部に植立した アンカースクリューを用いた矯正歯科治療』

日 時 : 2018年7月18日(水) 16:45~18:30

場 所 : 歯学部4階 示説室

演 者 : 本吉 満 先生

日本大学歯学部歯科矯正学講座 教授

講演抄録

歯科矯正用アンカースクリューを用いることにより絶対不動の固定源を得ることが可能となり、予知性の高い治療結果が得られるようになった。その植立手技は容易で、協力性に依存することなく良好な治療結果を得ることができる。その植立部位として従来、頬側歯槽部に設定することが多く、主に抜歯症例における前歯の遠心移動に用いられている。

一方、上顎歯列を一塊として遠心に移動する場合には、アンカープレートが多く用いられてきたが、アンカープレートの設置手術にともなう外科的侵襲が大きく、患者への負担が少なくないとの観点から、近年これに代わって口蓋に植立したアンカースクリューが多く用いられるようになってきている。口蓋の植立部位は口蓋歯槽部や、正中口蓋縫合部付近などがあるが、口蓋の正中部への植立においては歯根への接触の恐れがなく、さらに骨質が強固であるため、安定した固定を得ることができるという利点がある。しかし、口蓋正中部に植立したアンカースクリューを直接固定源として、上顎歯列の遠心移動をする場合、その牽引方向が圧下方向に限定される他、片側のみの遠心移動を行うことが困難であるなどの不都合が生じる場合がある。そこで当講座では低侵襲にて上顎歯列全体の遠心移動を可能とすることを目的に、口蓋正中部に植立したアンカースクリューに着脱できるアーム状の口蓋側固定装置を考案した。この装置の中央部には、アンカースクリュー頭部に固定できる維持部分があり、ここからアームが左右に延伸した構造となっている。アームを屈曲、調整することにより任意の位置からの牽引が可能であり、プレートタイプのアンカーに近似した効果を得ることができる。

今回は前半に頬側歯槽部への植立時の偶発症を避けるための注意点の他、アンカースクリューの植立を成功させるためのキーファクターなどについて述べ、後半は応用編として口蓋正中部に使用するアンカースクリューや術式、埋入時の注意点について触れ、効率良く上顎歯列の移動を行う方法について考察する。

連絡先: 口腔顎顔面矯正学分野 田中 栄二

(088-633-7357 内線5291) etanaka@tokushima-u.ac.jp